

道岳連だより

広報 NO.82
平成30年1月5日
北海道山岳連盟

<http://www.hokkaido-haa.net/>

年頭の挨拶

2018年 新年あけましておめでとうございます

北海道山岳連盟会長 小野 倫夫



北海道山岳連盟の会員の皆さんあけましておめでとうございます。冬將軍ならぬ北朝鮮のエスカレートする暴走に、日本中を震撼とさせ、北海道上空を弾道ロケットが通過、今年はどうなるのかと不安を感じます。「平和ボケ」「軟弱」と言われても、唯一の被爆国の日本としては決して起きてほしくない事態、戦争は絶対に避けてほしい。今は米国のトランプと北朝鮮の金正恩が、ボタンの掛け違いをしないでほしいのが世界中の願いです

昨年、道岳連は主管として第56回全日本登山大会・北海道大会を担当しました。当番7回目の今回は、7月6日～8日に羊蹄山・ニセコ山系を会場に8コース設定。参加者は沖縄からもあり250名、道岳連のスタッフ50名、参加者の中には90歳を超える方もいました。各コース、猛暑のためリタイヤする人もおりましたが、さしたる事故もなく、全員下山しました。歓迎レセプションでは旧交を温めたり、道内スタッフと山行の話など、談笑する光景が見られ、アトラクションのアイヌ民族の歌と踊りには、ステージで一緒に踊ったり盛り上がりました。

全日大会がきっかけに始まった全道交流登山会も8月26日～27日富良野山岳会の主管で開催、31回目の今回は富良野西岳をメインに230名の道内の山仲間が交流、親睦を図りました。主管していただいた富良野山岳会の運営と、きめ細かい配慮に感謝します。今年の大会当番については、目下依頼交渉中です。期待してお待ちください。

道遭対協の啓発活動である「安全登山シンポジウム」は、200名山ひと筆書きの田中陽希氏と国際山岳医大城和恵氏を講師にご講演いただいた。今回、講師や直近の話題に関心のある方などで、参加者は定員を上回り、講演とディスカッションに熱心に聴き入っていた。

アウトドアフェスティバルイン・ルスツとして9回目となるトレイルランニングは、9月23～24日開催。北海道で一番キツイ大会とPRや、全国各地での大会が競合したことも一因で参加者が240名に止まり、今後の課題です。

国体は女子の入賞が二種目に終わったが、選手層の過渡期でもあり、今後に期待です。8月11日の「山の日」記念山行が道内各地で実施された。制定二年目ですが、全国的にも様々な取組みがあり、道岳連も意義ある活動を模索しながら進めます。

平成29年度の各委員会の活動もほぼ順調に進んでいます。残りの冬のシーズン、遭難や事故に遭わないよう万全の準備態勢で登山・スキーに臨むことをお願いします。

山岳界は高齢化、少子化による山岳会の低迷や解散、そしてカテゴリーの広がりなど、様々な問題があります。しかし、「山の日」「オリンピック」を我々が共有することで、活動の活性化への道筋を見いだせると信じます。今年も道岳連の活動にご支援ご協力のほどよろしく願いいたします。終わりに会員の皆さんのご健康とご多幸を祈念して年頭の挨拶とします。

2017「山の日」記念登山 … ふるさとの山へ登ろう …



2016年に施行された国民の祝日「山の日」を祝い、北海道山岳連盟加盟団体の記念登山が、各地で多彩に実施された。道岳連では11月に実施団体からの報告を冊子として発刊した。

樽前山西ピーク…苫小牧山岳会 室蘭岳…恵庭山岳会 雄阿寒岳…釧路山遊会 カルルス山・来馬岳…登別山岳会 斜里岳・周辺…北見クーラカンリ イチャンコッペ山…ロベニア山岳会 浜益御殿…札幌山岳連盟 阿寒富士…釧路山岳連盟 樽前山…岩見沢山岳連盟 旭岳…道岳連ジュニア登山 富良野西岳…道岳連交流登山会 富良野山岳会 えぞ山道会 札幌山の会 羊蹄山…札幌山の会 暑寒別山群…滝川山岳会 笠岳…函館マウンテンクラブ 十勝岳…恵庭山岳会 昆布岳…悠遊倶楽部 室蘭岳…室蘭山岳連盟

第72回 国民体育大会(愛媛国体)山岳競技

第72回国民体育大会の山岳競技は、平成29年10月1日から3日の3日間愛媛県西条市石鎚クライミングパーク SAIJO(リード)、西条西部体育館特設会場(ボルダリング)で開催された。

第72回国民体育大会山岳競技北海道代表選手団

成年男子	監督	石井 昭彦	北海道防衛局 (旭川山岳会)
	選手1	國谷 斗馬	グラビティリサーチ札幌 (登攀道場美唄)
	選手2	岸本 武蔵	北海道科学大学2年 (登攀道場美唄)
成年女子	監督	一安 敏文	一安組 (北海道フリークライミング協会)
	選手1	萩原 亜咲	Whipper Snapper Gym (北海道フリークライミング協会)
	選手2	小武 芽生	女子栄養大学短期大学部2年
少年男子	監督	橋村 昭男	北海道医薬専門学校 (えぞ山道会)
	選手1	坂本 大河	札幌市立常磐中学校3年
	選手2	竹内 悠真	立命館慶祥中学校3年
少年女子	監督	長井 洋子	株式会社明治 (登攀道場美唄)
	選手1	北谷 未紗	北海道遠軽高等学校3年
	選手2	上原子 瞳	札幌静修高等学校1年
トレーナー		本堂 雄大	祐川整形外科医院 (北海道フリークライミング協会)

競技結果

成年男子	リード	9位	ボルダリング	19位
成年女子	リード	4位 (入賞)	ボルダリング	3位 (入賞)
少年男子	リード	18位	ボルダリング	19位
少年女子	リード	15位	ボルダリング	15位
男女総合成績 (天皇杯)		12位		
女子総合成績 (皇后杯)		6位 (入賞)		

北海道トレイルランニング大会 2017

北海道アウトドアフェスティバル 2017in ルスツは、同実行委員会が主催、北海道山岳連盟・北海道オリエンテーリング協会が共催し、9月23日ロゲイニング、25日トレイルランニングを尻別岳・ルスツリゾート周辺で開催。トレランは50マイル(80km)、60km、30km、15km、5km、キッズの例年通り6つのカテゴリーで、248名がエントリーしました。

50マイル、60kmの出発は真っ暗いなか、午前3時30分ヘッドランプ装着してのスタートです。北海道一番のキツイ大会と銘打っていますが、今回の結果もキツイ内容でした。50マイル(80km)は、14名のエントリーで完走者が3名という結果になりました。

天候は晴れてトレイルランニング日和とでもいえるよいコンディションの大会でした。沢沿いのコースを今年の一部変更し改善したつもりでしたが、前日に雨が降ったため、まだコースはぬかるんでいたようです。来年は10回目の記念大会となるため内容等について検討を加えてまいります。



行事・各種事業報告

第2回理事会 10/15 札幌市教育文化会館

平成29年度北海道山岳連盟第2回理事会は、札幌市教育文化会館で44名(委任状24)の理事が出席して開催された。議件として1号議案 平成29年度前期を振り返って2号議案 平成29年度前期事業報告について3号議案 平成29年度後期事業予定について4号議案 備品報告書5号議案 各種議題6号議案 その他が提案された。

明田理事長は、平成29年度の前期を振り返り、安全登山シンポは田中陽希人気で満員の盛況。全日大会は天候に恵まれ参加者に満足いただいた。リーフレット配布の課題。加盟団体の委員会事業への協力や、指導員の活躍の場の設定、若い登山者ニーズを把握し道岳連内部横断のチームづくりの検討。SC協議会への参加・見学者増の推進などについての総括があった。



議案審議では、2号議案は前期事業の報告3号議案は後期事業予定が各専門委員会委員長からそれぞれ報告・提案があった。5号議案の各種議題は安全登山シンポの決算、トレラン大会、全日大会DVDの配布、規約改正検討、山の日事業冊子作成、山岳9団体交流会、次期役員選考などについて提案があり、出席理事の質疑を経て14時に閉会した。

日高登山研修所納会 11/4-5 日高登山研修所

平成 29 年度の日高登山研修所納会は、加盟団体会員 62 人が参加した。専門委員会の会議は受付前に実施、例年通り受付後に内外の大掃除、冬囲いを行い、16 時から佐藤副会長が昨年の豪雨災害で被災した東大雪、日高、阿寒周辺の林道及び登山道の現状を資料とスライドで報告。続いて佐藤副会長が創立 50 周年を迎えた「札幌山の会」のこれまでの歩みと現状、山小屋「京極山荘」建設の経緯などについて発表した。その後、夕食と懇親会を行った。

二日目、近郊の崖山登山、スポーツクライミング、「ヒグマのいる山に安全に登るには」の講演・実技に参加者がそれぞれ別れて安全登山研修を行った。



林道・登山道現状報告



熊よけスプレーの実射



崖山登山隊 (21 名)



スポーツクライミング

北海道山岳 9 団体交流会 11/16 TKP ガーデンシティ札幌駅前

2017 年度の北海道山岳 9 団体(道央地区勤労者山岳連盟、日本山岳会北海道支部、北海道勤労者山岳連盟、札幌山岳連盟、北海道山岳ガイド協会、HAT-J 北海道支部、日本ヒマラヤ協会、北海道山岳連盟、山のトイレを考える会) 交流会が 11 月 16 日、札幌市 TKP ガーデンシティ札幌駅前で開催された。今回は各団体からの参加者に加え、環境省上川・上士幌自然保護官 2 名も初参加し、47 名が集った。

今年度は北海道山岳連盟が幹事団体で、小野会長を始めとし 13 名が出席、山納競技委員長がスポーツクライミングの話題を提供した。また、札幌山岳連は佐藤眞会長以下 7 名で、宮園副会長が札幌市民登山会(山の日記念登山)の活動報告を行った。この交流会は次年度 10 回目を迎える。

登攀技術研修会 9/30-10/1 小樽赤岩・おこぼち山荘

2017年度の登攀技術研修会は、9月30日(土)～10月1日(日)、小樽おこぼち山荘と小樽赤岩で実施しました。参加人数は受講者24名、スタッフ5名の合計29名。今回は、申込者が多く早々と定員となり4名オーバーで締め切った。申込みをお断りした方々には申し訳ありませんでした。来年度は是非早めの申込みを期待しています。

初日は午前10時に集合、受付後早速10時半から講習開始。12時まで「登攀用具の知識」、13時～15時「ロープワーク」15時10分～16時30分「懸垂下降技術」、16時40分～18時「クライミングの確保技術、制動確保から自己脱出方法」と時間一杯行った。18時から夕食。その後、席を改め懇親会で疲れた頭をクールダウン。

翌日は、6時半に朝食、早めに赤岩に移動したが、駐車場には車が多数あり、使用予定の「奥リス」は先行者が入っているようだ。早めに着いた講師が現場に行ってみると、岩見沢「こぶし山岳会」の方達が奥リスノーマルルートに取り付いていたが、登り終わったら道岳連で使ってくださいとのことで、ルートを譲っていただき感謝。改めてお礼を申し上げます。

8時半より2班に分けてアンカーの設置とセルフビレイの取り方や、トップロープでのクライミングとビレイ方法等の実技講習を実施。14時無事に研修を終了し閉会式を行い解散となった。

(石川 記)



奥リス前にて参加者の皆さん



奥リスフランケ左ルート(5級)

高所登山講習会 8/24-28 富士山

今年も富士山一合目から登り、山頂に泊まって高山病体験をするという高所登山講習会が8月24日～28日の日程で行われました。

参加者は函館や札幌、岩見沢などの会に所属している方や道岳連個人会員の50～70代の男性3名と女性13名の16名と昨年同様の規模に講師は2名、工藤と斜里山岳会所属の指導員笠井さんという構成です。

初日は新千歳空港や羽田空港で合流し、静岡県の富士山古道のスタート地点の一つ須山浅間神社へ向かい、古の方同様、富士登山の安全祈願をしました。ここから現代の一合目へ車で移動し、翌日からのコースと富士山を拝もうとしましたが、山は雲の中でした。山中湖の宿に移動し、机上講

習などを行い明日からの登山に備えます。

二日目は現代の富士宮ルート一合目となる静岡県の水ヶ塚公園に移動し、樹林帯から森林限界、宝永火山などを見ながら登りますが、下界は時々見えるのみです。フジアザミやムラサキモメンヅル、ホタルブクロ、オンタデ、ヤナギランなどの植物にも目をやります。

14:50 今夜の宿、富士宮口六合目の標高 2,500m に位置する雲海荘に到着。高山病にならないよう、すぐに寝ずに外で移り変わる景色を見たり水分補給したりし、高所に体を慣らします。珍しいことにニホンカモシカも目撃できました。この日は、皆さん調子はいいようでした。

三日目はいよいよ山頂です。6時半に六合目雲海荘を出発。天気は良く雲海の中に時々下界が見える中、順調に高度を上げ、12時半前に外輪山到着。浅間大社にお参りしたり記帳したりと休憩し、13時半に富士山山頂到着です。ガスに巻かれ景色は見えませんが全員で記念撮影、各々日本一を満喫。お鉢回りをし、15時過ぎに宿泊する頂上富士館到着。さすがに頭痛や倦怠感などの高山病の症状が出てくる方もおりますが、重篤者はいません。我慢の一夜を過ごしてもらいます。



宝永山から富士山頂を望む

翌朝は食欲不振、頭痛などに耐えながら4時半過ぎから寒い中ご来光を待ちます。残念ながらきれいなご来光とはいかないものの、そこそこのものを拝み、御殿場ルートを下山します。

5時半前に雲海や宝永山を見ながらの下山開始。砂走を経験し、宝永山からトラバースし富士宮六合目に合流、お世話になった雲海荘でお土産などを買い、9時に富士宮五合目に下山しました。ここからはシャトルバスで駐車場、入浴などして羽田空港、そして自宅へと向かいます。

天候やメンバーに恵まれみなさん楽しく、高山病で辛くもあつた登山でしょうが、日本一を実感でき非常に良かったかと思えます。この経験を日本アルプスや本場アルプスや高所の登山、トレッキングに活かしていただければと思います。 (海外登山委員会委員長 工藤 寛)

参加者感想 遊悠倶楽部 小笠原さん … 富士山に登って来ました。

8月24日千歳空港を出発、山中湖にある秀山荘に宿泊。翌朝、水ヶ塚公園までレンタカーで行き1合目から登山を開始、まわりの樹木や花、コケに癒やされながら頑張つて登りました。6合目までは長かったけど、なんとか小屋(雲海荘)にたどり着き、ザックの中や持ち物を整理し、翌日の準備をしてから「カモシカ」を見に行きました。突然「カモシカ」が出てきてびっくりしましたが、間もなく姿が見えなくなったので小屋に戻りました。

風の音が強く気になりましたが、26日の朝は天気良さそうでした。でも風が強く強風の中頂上を目指して登りました。下山してくる人も多かったので、登りはゆっくり登れました。しかし3200mあたりから呼吸が苦しくなつて来て「これって高山病？」と思ひ水を多めに取り、深呼吸をしながら何とか山頂までたどり着きました。浅間神社でお守りや御



朱印をもらい、高齢者番付帳に記載し、剣ヶ峰からお鉢のまわりを歩いて小屋(富士館)に入り、翌日の下山の準備を済ませ夕食を食べて早めに休みました。

27日は朝食をしっかり食べてから、たくさんの方々とご来光を拝み、下山を開始、途中から砂走を下って宝永山まで行き、富士山はすごいなあ〜と眺めながら6合目の雲海荘まで行き、小屋のお母さんにお礼の挨拶をして、5合目からバスに乗り無事下山しました。

経験のある方々や、講師の方々のアドバイスがあったので、70歳の私でも富士山に登る事が出来ました。本当に嬉しいです、ありがとうございました。

参加者感想 岩見沢こぶし山岳会 高野 千代 … 高所登山講習会・富士山に登って

平成29年8月26日(土)午後1時15分、富士山頂上剣ヶ峰3,776mに登頂!

ヤッター!! 日本一高い所に自分が立っている。この感動をなんと表して良いのやら、元気に登れたことに感謝して、にっこり記念撮影に収まりました。

さて、この度、北海道山岳連盟主催の「高所登山講習会・富士山」に、私の所属する“岩見沢こぶし山岳会”は、7名が参加しました。70歳にして初めての挑戦の人、天気が悪くて8合目で引き返した事のある人、高山病でフラフラ歩いた事のある人、この企画に3回目のベテランなど様々でした。私は、締切り間際に定員16番目に入り込んで2度目の富士山に挑戦しました。

実は4年前に旅行会社のツアーで吉田ルートから登りました。当時膝痛を抱えて痛み止めを服用しながらハラハラの登山でした。万全な体調で「もう一度富士山に登ってみたい」と、思っていました。山仲間から声をかけてもらい、「いまだ!」と挑戦することになりました。“挑戦”と、なんと大げさな、しかし富士山はやはり“挑戦”に値する山なのです。

一日目(8月24日):参加者16名と講師2名の総勢18名で、まずは、須山浅間神社(富士山世界文化遺産)に、「富士山に無事登頂できますように…」と、お参りしました。山中湖秀山荘泊。宿にて机上講習会。参加メンバーのそれぞれの富士山への思いとレクチャーを受けてウォーミングアップ。

二日目(8月25日):いよいよ富士山へ。9時45分に1合目「水ヶ塚公園(標高1,450m)」をスタート。ここでも思わず「無事に登れますように…」と、手を合わせました。森林の中を、汗を拭き拭き、時々岩塩と水分を取りながらゆっくり歩きました。御殿場上で森林限界を超えて、一面火山の跡の世界に、富士山を登っていることを実感した一瞬でした。宝永火口の第2と第3の間を進み、そこに咲いていたフジアザミの大きいこと。直径7~8cmもあろうか。初めて観る花を目に焼き付けて黙々と歩きました。歩くこと5時間あまり、14:50分「富士宮口6合目(雲海荘)2,490m」に到着。ソフトクリーム(200円)が美味しかった!ここから頂上が見えるのが良くて、はやる気持ちを抑えました。近くの斜面に、一頭のニホンカモシカが歓迎の挨拶に来てくれて、全てが絵になる情景でした。

三日目(8月26日):頂上へ向けて6:30分スタート。9合目で風が強く雨もパラパラ。カップ着用の指示で上下着込む。雨は結局降らなかったが、カップのお陰で寒さを防ぐことができました。私は、「身体がフラフラ」「手先が冷たい」「生あくび」「食べられない」等の軽い高山病状態。鳥居をくぐり、12:20分「富士山本宮浅間大社奥宮」に。頭がボーっとしたまま、感謝を込めて参拝。アルファ米の山菜おこわが食べられず、山仲間が分けてくれたキュウリがノドを潤してくれました。昼食を終えてお鉢めぐりへ。「最後の急登が待っているよ」に、呼吸を整えて歩くこと30分



頂上手前の鳥居

らい、13:10分「富士山頂剣ヶ峰」に到着。両手を広げてヤッター!! 日本最高峰の標柱を囲んで、安堵の記念写真。

お鉢めぐりを終えて15:20分「富士館」に到着。定番のカレーライスを食べ、グーグー詰め寝床と汚れたトイレ。これが富士山の頂上で眠ること。19:00の消灯に、眠りに落ちました。この日は9時間以上(休憩含む)歩きました。

四日目(8月27日):ご来光を見るために着込んで待っていましたが、雲の間に挟まれて残念。5:15に下山開始。夜中に登って来た人とすれ違い、「1合目から登ったんだよ」に、若者が「マジですか？」



「信じられない」と、驚かれました。7合目から砂礫の道を下り、7:45分「宝永山(2,693m)」に到着。ここから見える富士山の雄大さと荒々しさもいい!宝永山第1火口の中を歩いて6合目へ。雲海荘で買い預けていたお土産を受け取り、9:10分「富士宮登山口」5合目(2,400m)到着。約4時間かけて無事下山。山頂に向かって手を合わせて、ありがとう!富士山!感謝!

さて、「富士山は、登る山ではない」と言う人もいますが、私は「やはり登る山です!」と言いたい。あの一步一步、歩いた先に日本一高い山が待っているのです。火山の砂礫の道を、他の誰もいない自分の足で歩いてこそ、その場に立った者だけに味わえる感動があるのです。そう“高野千代”日本一高い富士山に登ったのです!

～この企画の魅力～

○コースよし～1合目から登り、宝永山経由で下山し魅力満載のコースであること。

○費用よし～3泊4日で10万円であること。

○講師よし～ゆっくり安全に、高所順応させつつ高山病も経験できること。

私は、工藤さんのすぐ後ろに付いて必死に歩きました。お陰様で登ることができて、この企画を堪能しました。私の人生に「富士山に1合目から登った!」と、自慢が一つできました。全日程とも天気に恵まれたことも幸いでした。いまは、登り終えてホッと力が抜けた状態と、この感想文を仕上げながら余韻に浸っています。

講習会参加メンバーと講師の工藤さん(海外登山委員会委員長)、笠井さん(斜里山岳会)に感謝します。ありがとうございました。

自然保護指導員等研修会 9/9-10 愛山溪・沼ノ平

今年の自然保護委員会研修事業は、9月9日(土)～10日(日)の両日、大雪山国立公園愛山溪周辺で実施し、個人会員2名を含む17名が参加した。

一日目は、上川町かみんぐホールで座学研修。大雪山を中心に、北アルプスや朝日連峰などでも登山道の整備を行っている、北海道山岳整備の岡崎哲三氏が「大雪山の山岳自然環境保全の取組み」をテーマに講演をした。大雪山の登山道の総延長は300kmで、その殆どが浸食されており、荒廃の速度が速く整備が追いつかない現状にある。歩道整備の基本は①危険要因の除去など利用者の歩行確保 ②浸食の防止であり、特に②は自然環境に配慮した「近自然工法」による施工など専門的な技術が求められる。今年、黒岳など大雪山系で実施された一般登山者参加型の整備事業には、募集定員を超える応募があり、今後の取組みに希望も見られるとの説明があった。

事例発表では、室蘭岳友会の辻野健治氏が、地元黒松内岳における登山道整備や利尻山のリシリ

ヒナゲシ保護活動、室蘭周辺の地元山岳会による登山道整備の状況を紹介した。

16時に研修会場を出て、宿舎の愛山溪ヒュッテに移動。懇親会では「登山道整備に多くの人に関わっていることに驚いた」「機会があれば整備に参加したい」などの感想が述べられていた。

二日目は、目が覚めると雨模様。天気予報は悪くなかったが、最近は天気不安定な事が多い。今日の行程は、ポンアアンタロマ川上流のイズミノ沢コースから滝の上分岐を経て沼ノ平、三十三曲り下る周回コース。このコースは大雪山では比較的早くから「近自然工法」による整備が実施されていて、随所に川石など付近の資材を活用した石組み階段や導流工が見られる。

滝の上分岐を経て沼ノ平手前にさしかかると、永山岳方面は早くも紅葉が見られ、ハイマツの緑とのコントラストが素晴らしい。沼ノ平の木道敷設前の踏み跡には、麻ネットが張られ植生の回復も観察できる。八島分岐では、現在閉鎖中の松仙園へのルート再開に向けた地元協議の進捗状況などを土屋顧問がレクチャーした。

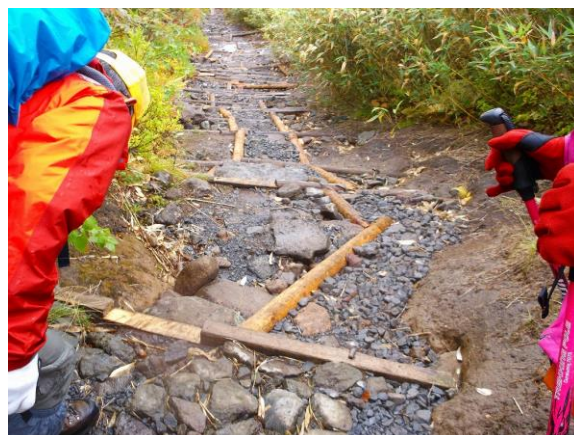
沼ノ平分岐からは、岡崎氏ら有志が立ち上げた「山守隊」が、一般登山者参加型でつい先月に整備を実施した箇所を見学。水路と歩道の分離、ステップ&プールなど、氏の独創的な工法が見て取れる。三十三曲りの急坂も整備がほぼ終了、悪路で登りも下りも難儀した昔の面影など今はない。大きな段差は緩和され、洗掘を防止する排水にまで配慮した施工がなされ、実に安全で歩きやすい歩道に変貌していた。

予定の12時30分に愛山溪温泉に下山、土屋顧問に講評をいただき、二日間の日程を終了した。

(報告者 自然保護委員会 内藤 美佐雄)



岡崎講師の歩道整備の講演



歩・水分離工法施工現場

冬期遭難対策研修会 12/9-10 大雪青少年交流の家

12月9日から10日にかけて白金温泉国立大雪青少年交流の家において、一般登山愛好者や道岳連会員16名とスタッフ合わせて21名が参加し、実践的山岳遭難救助対策研修が実施され有意義な研修会となりました。

この日は、白金カップクロスカントリー大会が開催され、全国より小学生から大学生まで集まり、大雪青少年交流の家は満員状態となりました。

一日目、受付直ぐに野外において発信状態のアバランチトランシーバの使い方について、XYZ軸の方向に変化させ50m先から受信状態を確かめるとともに、二班に分かれ一人ずつ早く捜し当てる訓練を行いました。

3時から、室内において開講式が行われ、道内の遭難状況について、今年11月現在で118件、140

人に達し、昨年1年間に追いつく数となっている。遭難原因は、道迷い34%、転倒22%いずれも下山時に多く起きることが実証され、遭難原因を分析、安全のための注意すべきことを研修しました。その後、装備とロープ引き上げ二分の一、三分の一引き上げ理論について、図解や実際にロープがセットされ勉強会が行われました。

夕食後は、意見交換を行いながら、ロープ引き上げの仕掛けをおさらいしながら楽しく交流を深めました。

二日目は、交流の家敷地内の急斜面を使い、3班5名の組に指導者が付き、ロープによる引き上げの実践を行いました。それぞれ、班のリーダーを入れ替えながら、踏み固めた雪面に様々な道具を使い2点以上の支点を埋め込み、流動分散とロープ仕掛けの二分の一に、これから発展する六分の一、または掛け替えて三分の一を次々試しながら研修を行いました。



引き上げの実践訓練



引き上げ理論の講義

結果二分の一はスピーディに、三分の一にプーリーを一部使った方法は負担が少なく引き上げられることを体験しました。また、未経験者と熟練者の混合班において、リーダーの指示は重要であることなど、実践で研修しました。

(報告 遭対委員長 斉藤 邦明)

第8回全国高等学校選抜クライミング選手権大会

12/23-24 埼玉県加須市 加須市民体育館

リード男子 (109名)

佐川 奎汰 (遠軽高校)	56位
片平 翔也 (富良野緑峰高校)	79位
田中 雅登 (遠軽高校)	90位

リード女子 (83名)

北谷 未紗 (遠軽高校)	19位 (準決勝進出)
上原子 瞳 (札幌静修高校)	24位 (準決勝進出)
東 さくら (遠軽高校)	37位

学校別順位

リード男子 (29校)	遠軽高校	18位
リード女子 (19校)	遠軽高校	4位



SPORT CLIMBING
HIGH SCHOOL
STUDENTS
CHAMPIONSHIP
2017 第8回 全国高等学校選抜 スポーツクライミング選手権大会
KAZO
12.23 SAT - 24 SUN

※日本山岳・SC協会HPより転載

今後の諸行事

氷壁技術講習会 (指導委員会・海外登山委員会)

平成30年1月13日(土)～14日(日) 層雲峡温泉ペンション銀河・銀河の滝

冬山講習会 Part 1 (基本編) (普及委員会)

平成30年2月3日(土)～4日(日) 京極山荘・羊蹄山京極コース

山岳スキー(氷雪)技術研修会 (指導委員会・山岳スキー運営委員会)

平成30年2月11日(日)～12日(休) 日高青少年自然の家・熊見山他

日山協SC部ブロック別研修会 (北海道ブロック・国体委員会)

平成30年2月24日(土)～25日(日) 札幌市生涯学習センターちえりあ

山岳スキー技術検定会 (指導委員会・山岳スキー運営委員会…実施要項未確定)

平成30年2月24日(土)～25日(日) 日勝ピーク周辺

第3回理事会

平成30年3月11日(日) 札幌市(会場未定)

冬山講習会 Part 2 (応用編) (普及委員会)

平成30年3月17日(土)～18日(日) 大雪青少年交流の家・十勝岳

山岳スキーツアー (指導委員会・山岳スキー運営委員会…実施要項未確定)

平成30年3月24日(土)～25日(日) 富良野岳・三段山

日高登山研修所開き (総務委員会)

平成30年4月14日(土)～15日(日) 日高登山研修所

道岳連だより

北海道山岳連盟広報 No.82 平成30年1月5日発行

発行 北海道山岳連盟 事務所 札幌市豊平区月寒西3条10丁目2-48

発行責任者 小野 倫夫 編集担当(総務) 内藤 美佐雄